

3次元設計で全国最高賞

昭和土木設計(矢)佐々木さん

製造業経験、技術生かす

矢巾町流通センター南4丁目の建設コンサルタント業、昭和土木設計に勤務する佐々木高志さん(35)は29日、コンピューター利用設計システム(CAD)のソフト開発を手掛けるオートデスク(本社・東京都中央区)のクリエティブ・デザインに橋を整備するための



グランプリに輝いた佐々木高志さん(左)と村上功社長。手前は作製した3次元地形画像

ン・アワーズ2015橋梁景観設計に着手。のCIM(シム)部門でグランプリに輝いた。製造業で磨いた3次元CADの実力を生かし、土木分野への3次元設計の普及拡大と一層の成長を誓う。佐々木さんは昨秋から、岩泉町の大川七滝に橋を整備するための

小型無人機で撮影した写真約450枚を使って測量し、CADで3次元地形を作製した。この事例を応募したところ、設計や施工など土木インフラ整備の一連の流れを3次元データを使って進める取り組み(CIM)のアイデアを競う部門で頂点に輝いた。授賞式は29日、東京都内で行われた。昨年、製造業から転職した佐々木さんは「若い人が土木の仕事に興味を持てるよう、自分も楽しみながら新しい仕事に取り組み」と決意を新たにすると、技術支援をした北上

市のいわてデジタルエンジニア育成センターによると、土木分野での3次元設計は全国的に普及しておらず、榊原健二主任講師(33)は「新しい取り組みで岩手の企業が受賞したのはうれしい」と喜ぶ。

同社の村上功社長も「先頭を切って進めた」と意欲を示す。佐々木さんは11月7日、県立大で開かれるオートデスク認定トレーニングセンターのフォーラム(午前10時〜午後4時半)で受

賞業務を発表する。午前10時半から。入場無料だが事前登録が必要。問い合わせはATC事務局(03・4500・9055)か同育成センター(0197・62・8080)へ。